

市民の力で実現した 注目ポイントを紹介

FINNING

文化

京都の文化は、先人たちが、幾重にも積み重ねてきた結晶。今を生きるわたしたちもまた、文化を日々の暮らしに生かし、絶えず新たな息吹を吹き込むことで、次の世代に引き継いでいく

- 機能強化した「新・文化庁」が京都に全面的に移転（明治以来初の中央省庁移転）。
- 祇園祭には文化庁職員も参加！市府職員との交流も[A]
- 京都芸大・美術工芸高が京都駅東部に移転。
チームラボ等のアート複合施設も今後オープン予定！
- 神宮道や動物園、ロームシアター京都、京セラ美術館がリニューアルするなど、岡崎エリアの魅力向上[B]
- 京都国際舞台芸術祭やKYOTOGRAPHIE京都国際写真祭、artKYOTOなど、官民協働で多様な文化事業を展開
- 「Arts Aid KYOTO」事業で75件の文化芸術活動を応援！
寄付総額2億8,000万円
- 芸術家等の居住・制作・発表等を支援する「HAPS」や文化芸術総合相談窓口の「KACCO」で芸術家の移住・居住をトータルサポート！
- 「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録



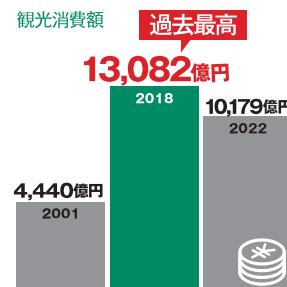
Q 文化庁が京都に移転して、今後どうなるの？

A 名実ともに京都が「文化首都」となり、文化芸術の国内外への情報発信の強化、生活文化の振興につながります！

観光

京都では、もてなしの心や宗教的な癒やしの文化が生活のあらゆる場面に浸透し、人々に深い潤いを与え、世界中の人々を惹きつけています。住む人、訪れる人が深い精神的充足をもって、お互いを尊重しながら過ごせるまちに

- 「京の夏の旅・冬の旅」や「京都朝観光・夜観光」、「とっておきの京都プロジェクト」等、観光客の時期・時間・場所の分散化の取組を推進。
- 観光客が多い月と少ない月の差は3.6倍から1.3倍に減**
- 観光事業者、観光客、市民が共に大切にする行動基準「京都観光マラル」を策定・発信
- 国際会議の開催件数が2010年から9年間で2.5倍に大幅増
- 宿泊税を導入、2019年度は42億円の税収に。市民・観光客双方にとって安心・安全な受入環境の整備などに活用
- 徹底的な対策により**違法民泊の根絶**
△2,500件以上を営業中止・撤退等に

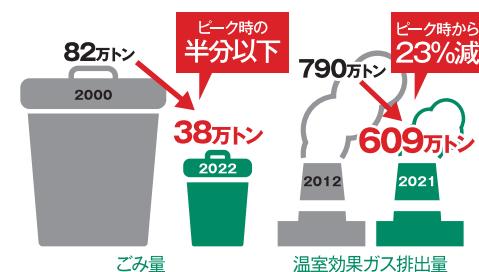


- Q 観光客が増えてきているけど、混雑やマナーが心配…
A 市民生活と調和した持続可能な京都観光にするため、分散化やマナー啓発などの観光課題対策に取り組んでいます！

環境

自然と共生する文化やしまつ之心を大切にしてきた京都。世界共通の目標である持続可能な社会に向けて、今わたしたちができる事を、考えていきたい

- 全国に先駆けて**2050年CO₂排出量正味ゼロ**を宣言、全国に波及し970以上の自治体が表明
- 1人1日当たりの**ごみ量は大都市最少**
- ごみ半減目標を達成！
食品ロス排出量もピーク時から**40%以上減**。クリーンセンターをピーク時の**5工場から3工場**に縮小、ごみ処理費用も**135億円削減**

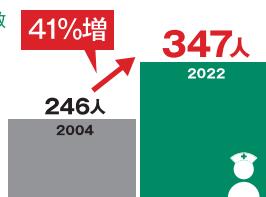


福祉・保健医療

人生100年時代。誰一人取り残されることがないよう、一人一人が相互に支え合うことで、今の京都がある。わたしたちも、誰かを支え、誰かに支えられる。それを当たり前にできるまちに

- 加齢による心身の衰えを防ぐフレイル対策の取組を全区で展開
- 民生児童委員の充足率**はほぼ100%で**大都市1位**
- 全区・支所に「福祉・就労支援コーナー」を設置・支援、**生活保護率**はピーク時から**13.3%減**
- 人口当たりの**保健師数**(市職員)は、**大都市1位**(大都市平均の**1.5倍**多く配置)

保健師数



産業・経済

伝統から最先端までの「ものづくり」が盛んな京都。育んできた技術や文化芸術に、最新の科学技術などを融合させ、わたしたちは新しい時代に目を向けてきた。企業や大学などの幅広い連携によるイノベーションを加速させ、活気のある創造的なまちを目指す

- 府内の**完全失業率**は**5.9%**(2001年)から**2.4%**(2022年)と大幅低下。近畿平均も下回る
- 林業生産額**が2012年から倍増の**10億円**。みやこ松木(市内産木材)の需要が拡大
- 染織や陶磁器の研究機能を受け継ぎ、多様なものづくりを支える「産業技術研究所」、50以上の経済団体が一堂に会し、新たな価値を生み出す**「交流と融合」の場「京都経済センター」**、産学公連携の研究開発拠点「成長産業創造センター」、京都ものづくりベンチャー戦略拠点「Kyoto Makers Garage」、地域企業の担い手確保・学生の就職を支援する「わかもの就職支援センター」がオープン
- 西日本最大級の「京都国際マンガ・アニメフェア**(京まふ)**」が大盛況！
マンガやアニメと伝統産業がコラボ！
- 「京都モデル」**ワーク・ライフ・バランス推進宣言企業**は**1,900社以上**

2020~2022
スタートアップ設立数 113社
大学発ベンチャー設立数 44社



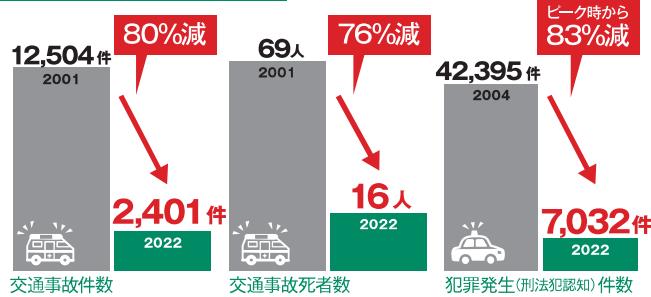
K Y O T O

京都のアツい話題

安心・安全

激甚化する自然災害をはじめ、あらゆる危機にしなやかに対応し、誰もが安心して暮らせるまちづくりをみんなで進めていく

- 人口当たりの出火件数は大都市最少
- 自主防災会、消防団、水防団をはじめ地域主体の防災活動と連携
- 人口を大きく上回る200万人以上が避難可能な広域避難場所を確保
- 救急隊の現場到着は全国平均より2分以上早い、7分20秒
- 橋りょう2,900箇所全てを点検し、長寿命化修繕計画を策定。160橋以上で補修・補強が完了！
- 住宅の耐震化率は90.0%に上昇！木造住宅のリフォーム、空き家の活用などを展開
- 駅周辺で10,340台（2001年度）あった放置自転車がゼロ（2022年度）に（放置自転車が100台以上ある駅周辺500m区域内が調査対象）
- 駐輪場箇所数は2007年度から2.8倍に増



子育て・教育

「子どもの存在を尊重し、かけがえのない命を守ります」
これは京都はぐくみ憲章の一節。
わたしたちは、「こどもをまんなか」に、子どもと過ごす時間に喜びを見出し、共に成長していく過程を楽しみ、社会全体で分かち合いながら、日々の暮らしを営んでいる

- 保育士の配置基準は国の1.3倍（90人定員）、年間給与は全国平均を100万円以上上回る水準を確保
- 負担いただく保育料は国基準の7割に軽減
- 乳幼児親子の相談・交流の拠点は181箇所（全国1位）
- 大都市トップ水準の子ども医療費助成、小学生までは1医療機関月200円に!!
- 医療的ケア児への支援、病児保育等も充実
- 民間保育園の耐震化を計画的に推進。耐震化率100%を達成!!

Q 子どもを預けやすい環境って本当？

A 大都市で唯一、保育所などで10年、学童クラブ事業で12年連続の待機児童ゼロを継続しています！



- 市立小・中学校の学力は全国トップ水準！（小学校は、大都市で3年連続1位）※文部科学省「全国学力・学習状況調査」
- 大都市で唯一、市立の全小学校・高校での茶道体験と全中学校での華道体験を実施！
- 独自の少人数学級を推進、1クラスの児童生徒数の少なさは大都市トップ水準
- カウンセラー等を50人以上配置した「こども相談センターパトナ」を設置。
- 市立の不登校特例校を2校設置するなどの不登校支援を推進
- 市立高校に芸術や工学などの多様な専門学科を設置し、特色ある教育活動を実施。
- 高校卒業生の大学等進学率は大都市1位の76.3%！

将来に負担を残さない、持続可能な行財政の確立に向け、様々な改革と都市の成長戦略を両輪で進め、「魅力あふれる京都」の今と未来を、市民の皆さんと共に、切り拓いていく

行財政改革

- 将来世代への負担の先送りをせず、安定した行財政運営を義務付ける、京都ならではの条例を制定
- ふるさと納税による寄付額は95.1億円（大都市1位）。食文化、伝統産業等の振興に活用
- 2008年度から2023年度までに4,100人以上の市職員を削減（年間人件費330億円削減）
- 女性の管理職は2004年度から2倍以上に。男性の育児休業取得率は75%
- 民間企業と連携した行政課題の解決に向け「KYOTO CITY OPEN LABO」を開設
- 手続のオンライン化やスマート区役所の実現に向けた取組などデジタル化を推進

Q 京都市の財政状況は改善されたの？

A 市民の皆さんと共に進めてきた改革と都市の成長戦略の推進により、財政状況は大きく改善。高齢化による社会福祉関連経費の増加や景気変動によるリスクなど、油断できない状況のため、以前の財政状況に戻さぬよう、今後、財政難克服への道筋をより確かなものにしていきます。

まちづくり

「京都らしさ」をどこに感じますか。山紫水明の自然、文化財や史跡が創り出す歴史的風土、それらが調和した町並みの美しさでしょうか。わたしたちは、先人から受け継いできた大切な財産を守り育て、磨きをかけ、新たな価値を創造しながら、このまちでの営みを楽しんでいる

- 視野景観保全やデザイン規制など、6つの条例による新景観政策を実施。看板等の適合率は99%に
- 地区計画、建築協定、景観協定等150の地域ルールで住民主体のまちづくりが展開
- 景観を守りながら、若者・子育て世代をはじめ、全ての世代が暮らしやすいまちの実現のため、住む場所、働く場所の創出を目指して、建築物の高さ制限や容積率の見直しを実施
- 空き家の相談を受ける不動産・建築等の専門家の派遣、全国初の「非居住住宅利活用促進税」の創設など、空き家等の流通・利活用を促進
- 若者・子育て世代を惹きつける賑わいのあるまちへ！洛西や向島地域の活性化に向けた都市計画の見直しや市有地の利活用などの取組を展開
- 四条通の歩道拡幅、京都駅八条口駅前広場の整備、JR新駅「梅小路京都西駅」の開業など、人と公共交通優先のまちづくりが展開
- 自動車利用はピーク時の28.3%から23.3%に減、鉄道・バス利用は21.8%から27.5%に増。マイカーでの観光客入浴率も30.9%から14.1%に減



2022年度決算

赤字脱却！過去最高の黒字に

- 77億円の黒字を過去負債の返済、子育て支援や成長戦略に活用
- 市税収入は堅調に推移し、過去最高の3,119億円
- 道路や学校などを整備するために発行してきた市債（借金）の残高はピーク時（2008年度末）から1,580億円（16%）減

※公営企業等を含む全会計の市債残高は、ピーク時（2002年度末）から5,129億円（24%）減